

クリエイトひがしね ニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね

999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内

TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊地 和博



Withコロナ時代の子育て支援

NPO法人クリエイトひがしね
事務局長 村山 恵子

新型コロナの感染拡大により、さまざまな分野に影響が出ていますが、私たちは“子どもの育ち”に与える影響を心配しています。国立成育医療研究センターが実施した「コロナ×こどもアンケート」の結果によると、全体の72%の子どもたちに何らかのストレス反応がみられるとのこと。ただその中で、ストレス反応に気づいている親はたった23%と大変少なく、ストレスが長引くと、適応障害やうつ病等の心身に症状が現われてくるという結果を知りました。

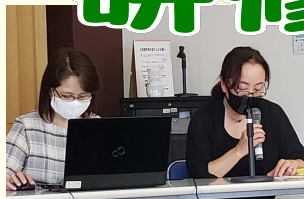
小中学校の長期休校による学習の遅れを取り戻すために夏休みが短縮され、また、子どもたちが楽しみにしている夏祭りや花火大会、恒例のイベント等が次々と中止に追い込まれ、子どもでなくとも減入ってしまいます。このような状況において、私たちにできることは、親御さんたちに「ストレスを抱えながら生活している子どもの存在に気づいてもらうこと」と、「身も心もストレスを開放できる場（安心できる居場所）をつくること」ではないかと考えています。

子どもが子どもらしく過ごせる空間があれば、子どもは自ら考え、育つ力をもっているのです。そのことはあそびあランドとタントクルセンターで遊び育つ子どもたちからたくさん学ぶことが出来ました。

子どもに関わる身近な大人が子どもの発達のこと、自由な遊びの大切さ、子どもへの関わり方を工夫するきっかけを知るために、コロナ禍における学びの場として「オンライン連続講座」を企画しました（詳細は4面）。withコロナ時代を生き抜くためには、子どもが安心できる居場所を生み出す必要があります。これからの子どもにとって最善の利益（well-being）とは何か？子どもを取り巻く身近な大人の方々と一緒に考える機会をつくり、0歳の乳児から思春期までの子どもたちの育ちをあたたく見守る“まなざし”をもつ大人を増やしていきたい！ Withコロナには、「ソーシャルディスタンス（社会的距離の確保）」が必要ですが、「心の距離」は離れないよう、スタッフ一同、日々の活動に取り組んでいます。

自分を磨く・専門性を磨く内部研修会

研修レポート



コロナ禍による臨時休館・休園時、来園者を迎え入れることのできない時間を利用し、それぞれの業務で抱えている課題を出し合い、解決方法をさぐる研修会を開催しました。



あそびあランド

子どもにやる気と自己肯定感を

あそびあランドは、遊育と共育を図ることを目的としており、遊びを通しての家庭教育支援施設と言えます。今回の研修では、どのような面から、どのような方法でアプローチすることがより有効な支援となるのかを研修しました。保護者には子育てにおける安心感を、子どもたちにはやる気と自己肯定感を育てあげたい、そのためには、プレイリーダーによる言葉のかけ方が重要になると考え、そのスキルの向上をテーマにしました。

以下は、研修の中で学んだ、子育てに役立つ家庭においても大切にしていきたいエキスです。

「子どものやる気と自己肯定感を高める言葉掛け」と聞くと、“ほめて育てる”ことかと思いがちですが“ほめる”とは、上下関係に基づく行為です。大切なことは、子どもを人格ある一人の人間として対等に見ること、そして、自分が言われてうれしい言葉を掛けること。その言葉で子どもは前向きな気持ちになり、やる気と自己肯定感を育てていきます。自分自身にどんなイメージを持つかは、子ども時代に身近な大人にどんな言葉を掛けられたかが大きな影響を及ぼすため、自信を持たせる「あなたは、できる子だから大丈夫！」という魔法の言葉掛けが大切です。



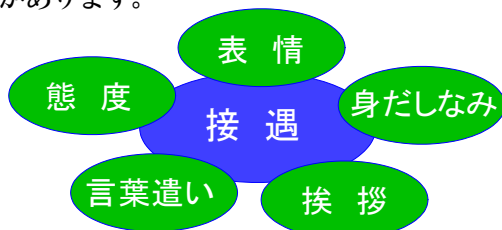
わが子の行動や態度を見ると、どうしても短所の部分に気がなり、指摘してしまいがちですが逆効果で、望んでいない行動や態度が頻繁に現れがちです。あえて短所には目をつむり、長所に注目し伸ばすことが、短所をなおす早道になります。いつも自分は見守られていると感じることが、前向きな気持ちにつながります。「朝、起きること」「ご飯を食べること」「学校に行くこと」といった、当たり前のことを当たり前と思わず、一つ一つの行動や態度を認め、言葉を掛けてあげることが大切です。指示・命令・禁止語はできるだけ使わず、子どもに考えさせ、決定させることが自立への早道となるのです。親にとって、毎日が成長の過程にある子育ては、すべて初めての体験です。

私たち職員もその悩みを共有しながら研修を重ね、微力ながら力になりたいと、思いを新たにして研修を終えました。（三浦通夫）

総合受付 接遇の向上を目指して

私達の今年度の重点目標は、①来館された方々に親しまれ、頼りにされる総合受付を目指す、②来館者が快適安全に利用出来るよう業務の質の向上を目指す、③職員同士がより良い職場環境で、仕事に対する意識を高め合うことを目指すと、三つに目標を定め、テーマを「接遇の向上」に決めました。

まず職員にアンケートをとったところ、一人一人接遇に対する解釈が違っていたので、その内容確認からスタートしました。接遇とは、単純な接客から一歩踏み込んだ、来館者に寄り添い、心地よい時間と空間を提供し、来館者をもてなしながら接客をする技術のことで、そのためには、表情、身だしなみ、挨拶、言葉遣い、態度の5原則があります。



私達が接遇だと思っていたことは、来館者に失礼がなく、不快を与えない程度のサービスをすることでしかなかったと気づき、話し合いました。その結果接遇とは、『5原則を基本とし、「目配り」「気配り」「心配り」を心掛け、来館者に寄り添って行動をすること』という結論に達しました。

◇目配り=よく注意して、必要なところに、落ちなく目を行きとどかせること、◇気配り=あれこれ気を使うこと、思いやり、◇心配り=あれこれ気をつかうこと、心づかい、配慮。

つねに来館者に関心を持ち、寄り添いながら、想像力を働かせて、気持ちを先回りすることが大切です。これは、技術を磨き、知識を得て、経験を積むことによって出来ると思います。接遇を身につけることは、仕事上だけでなく、私生活においても、相手の気持ちを考え尊重するものの考え方が自然と身に付き、相手が喜ぶことで自分もハッピーになります。そんな気持ちで、来館者だけではなく職員同士も接していければと思います。

(山平康子)

けやきホール 遊育・共育の場づくり

けやきホールでは、4月の理事長のアドバイスを受け、今年度のけやきホールの活動の方向性をこれまでの「遊育・共育の実践の場づくり」に、「家庭教育支援」も加え、市民に必要とされるけやきホールになるための目標に決めました。

そのため、今年度はけやきホールの遊具活用の可能性を「けやきひろば」を通して探った昨年度より一歩ふみこんだ支援を考えて研修しています。

現代社会において、子どもと接する機会がないまま親になる人も少なくありません。わが子に生活習慣を身につけさせることは親の大切な役目ですが、身近に教えてくれたり見守ってくれる人がいないとそれを達成するのは難しいものです。私たちはそういった不安を共に考え、親子の日常にかかわる存在である為に、基本的な生活習慣を身につけるトイレトレーニング、子どもと触れ合うごっこ遊び、小中学生の挨拶・言葉使い等の基本的な生活習慣獲得について調べました。小学生以上の子ども達へ向けて、「食べることは生きること」のメッセージを込め、強くたくましい体を作る知恵をつけることを願い、料理の基本や簡単な料理を紹介した“ひがしねMAMMAジュニア”を作成しました。

けやきホールでの「家庭教育支援」とは、子育てに不安を感じている人に寄り添い、共に考え続ける場所であることです。遊具を活かすのが難しい今、家庭教育支援について考え実践するために、今後の活動に反映できるよう取り組んでいきたいです。

(松田顕子)



子育て支援センター 「抱っことおんぶ」研修



赤ちゃんはうまれてからの1年で大きく成長し発達します。その成長や発達に必要なことをより多くの方に知ってもらい細やかな支援が必要と考え、

「抱っことおんぶ」「赤ちゃんの発達について」研修しました。

●「抱っことおんぶ」について

《抱っこ》首がすわる前は横抱きにする

①3ヶ月頃までは赤ちゃんの背骨のCカーブを意識して丸く抱く

②頭の下に手を入れて頭と首を支える

③赤ちゃんの両手を胸の前に来るようにすると赤ちゃんが自分の体の中心を覚えることが出来る
《おんぶ》首がしっかりすわってから始める

①しがみつく姿勢になるので体幹が鍛えられバランス感覚が育つ

②景色や状況を見ることができ脳に刺激を与える

③ママと同じ目線で見ること、疑似体験とコミュニケーションが深まる



●「赤ちゃんの発達」について

《赤ちゃん発達の順番》

うつ伏せ⇒ずりばい⇒はいはい⇒おすわり



⇒つかまり立ち⇒伝い歩き⇒歩く



職員が子育てに必要な情報に対して、共通理解を持ち、必要な親子にしっかりと届けられるよう努めています。

(松本弘美)

Withコロナ時代の 子育てを考える連続講座

新型コロナにより、不安を抱えながら生活する親子が増えています。Withコロナ時代をたくましく生き抜くために、子どもとの関わり方や大人の役割について、オンライン連続講座を開催します。

◆日時 2020年10月30日(金)～
2021年2月26日(金)
(詳細はHP参照)

◆参加料/無料
(自宅からオンラインZOOMアプリ
を使用して参加)

◆申込/インターネットで受付

◆問合せ/あそびあランド

0237-43-5551

URL <http://www.asobia.jp/>

with コロナ時代の
連続講座
子育てを考える

新型コロナ感染拡大により、たくさんの不安を抱えながら生きていく子どもを取り巻く課題を知り、子どもにとって最善の利益(子どものWell-being)について考える機会をつくります。
withコロナ時代を生き抜くためには、子どもが安心できる居場所が必要です。子どもに関わる大人たちが乳児から思春期の子どもの育ちをあたたく見守る“まなざし”をもてるよう、子どもとの関わり方や大人の役割について学びます。

ひがしねあそびあランド 遊育支援推進事業

オンライン講座
参加無料

子どもにとって最善の利益(Well-being)とは?

対象 子どもに関わるすべての大人の方
定員 各講座80名(先着順)
申し込み方法 インターネットのみ。QRコードを読み取りお申し込みください。※電話でのお申し込みはできません。

【お問い合わせ先】 ひがしねあそびあランド TEL 0237-43-5551 URL <http://www.asobia.jp/>
[主催] 特定非営利活動法人クリエイティブひがしね [後援] 東根市・東根市教育委員会

第1回 令和2年 10月30日(金)
「そうだったのか/子どもの行動(基礎編)」
「これでいいんだ! (実践編)」

第2回 令和2年 11月13日(金)
「思春期・発達に気になる子どもの行動理解と支援」

第3回 令和2年 12月4日(金)
「子どもに安心を届けよう! 子どもの居場所の大切さ」

第4回 令和3年 2月26日(金)
「心の根っこは遊びで育つ」

オンライン(ZOOM)講座を初めて受講する方・不安な方は…
令和2年 10月16日(金) [ZOOM使い方講座]

with コロナ時代の
子育てを考える連続講座
子どもにとって最善の利益(Well-being)とは?

この講座はインターネットで行う(オンライン講座)です。右のQRコードを読み取りお申し込みください。

ご自宅からオンラインでのZOOMアプリを使用しての参加となります。通信機器(パソコン・スマートフォン・タブレット)及び、通信環境(WiFi環境推奨)をご確認の上、お申し込みください。お申込みいただいた方には、あそびあランドより、詳細をお送りいたします。

正しい方講座を受講保障の方はあそびあランドにお問い合わせ下さい! TEL 0237-43-5551

オンライン(ZOOM)講座を初めて受講する方・不安な方 → 「ZOOM使い方講座」 令和2年 10/16(金) 10:00～17:00

第1回 令和2年 10/30(金)
「そうだったのか/子どもの行動(基礎編)」
「これでいいんだ! (実践編)」

午前部 10:00～12:00(基礎編)
13:00～14:00(実践編)
夜部 18:30～20:30(基礎編)
20:30～21:30(実践編)

第1・2回講師 発達支援 [Kids Sense] 主宰 茂木 厚子氏

第1回講師 石神井・冒険遊びの会世話人/子ども・遊び・絵本研究家/保育士/日本児童教育専門学校講師/保育と人形の会講師/上北小絵本を読む会代表/音楽遊びグループほんわかミュージシャン。現在は保育専門学校でてぶくろ人形作製の講師や、フリーで子どもの本やわらべ歌を紹介する活動、小学校や保育園での読み聞かせ、プレーパークで外遊びなどの活動をしている。

第2回 令和2年 11/13(金)
「思春期・発達に気になる子どもの行動理解と支援」

19:00～21:00
子どもの困った行動には理由があります。子どもの発達と感覚を知ること、身近な大人の役割や子どもとの関わり方を学びます。

第3回講師 子ども・遊び・絵本研究家/保育士 長谷部暢子氏

申し込み締切 10/15(木)まで

第3回 令和2年 12/4(金)
「子どもに安心を届けよう! 子どもの居場所の大切さ」

19:00～21:00
新型コロナ感染予防のため、普段と違う生活に大人も子どもも疲弊した毎日。不安を抱えながら生活する子どもに「安心」を届けるために、大人ができることをお聞きします。

第3回講師 1986年より不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのあるひとたちとともに地域で育ちあう場を続けている。認定NPO法人フリースペースたまりは理事長、川崎市子ども夢パーク所長、フリースペース代表、川崎若者就労自立支援センター「ブリュック」総合アドバイザー、精神保健福祉士、早稲田大学・神奈川大学非常勤講師。

申し込み締切 11/27(金)まで

第4回 令和3年 2/26(金)
「心の根っこは遊びで育つ」

19:00～21:00
子どもにとっての遊びは生きることそのもの。自由な遊びは髪短した心と体を開放し、発散できます。今こそ、子どもにとっての「遊びの大切さ」を知り、乳児から思春期までの子どもの育ちをあたたく見守るために大人の役割を学びましょう。

第4回講師 Leeds Metropolitan University(リーズ・メトロポリタン大学社会健康学部)にて、プレイワーク高等教育課程修了。冒険遊び場での実践を中心に、20年以上にわたる、遊び場子どもたちと関わってきた。都内各所のプレーパークや川崎市子ども夢パークでプレーパークとして働く。一般社団法人TOKYO PLAY代表、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会理事。国内はもちろろん海外へと活躍の場を広げている。International Play Association-日本支部運営委員。

申し込み締切 2/19(金)まで

編集後記

★タントクルセンターのけやきホール・子育て支援センターとあそびあランドが、コロナウイルス感染拡大防止対策のために、長期間休館・休園させていただきました。その間に、再開に向けて施設や遊具のメンテナンスを行うと同時に、ソフト面でもこれまで以上に子育て親子の力になれば、もっともっとタントクルセンターを楽しんでいただきたい、親しみを持っていただきたいと、家庭教育支援のあり方など、各センターでテーマを決めて、研修・研究を行いました。

8月26日の休館日にその発表会を行いましたので、クリエイティブニュースで特集を組みました。活字が多くなってしまいましたが、お読みいただきありがとうございました。
★今年は「新しい生活様式」が発表されるほど生活が一変しました。あそびあランドではZOOMアプリを使用して「子育てを考える連続講座」をオンラインで行います。皆さんに受け入れられるか未知数ですが、変化に柔軟に対応しながら、日々ご利用いただいている皆様の期待に応えられるようこれからも研鑽を重ねていきたいと思います。(Y)